

## 研究協力のお願

昭和大学横浜市北部病院では、下記の臨床研究を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

胸腺上皮性腫瘍における染色体安定性にかかわる BAP1, SETD2, Baf180 および  
関連 microRNA(miR31, miR106p, miR590)の発現

### 1. 研究の対象

2001年4月～2017年9月に当院で胸腺腫瘍や胸腺疾患の手術を受けられた方

### 2. 研究目的・方法

胸腺上皮性腫瘍には胸腺癌と胸腺腫がありますが、どちらも腫瘍化の際不安定になる染色体安定性に関わる分子について調べられていません。概して、胸腺腫では、腫瘍細胞が極端に少ない型もあり、腫瘍細胞自体を抜き取る操作が要求されるので、疾患に特化した治療の根拠となる腫瘍細胞自体の特性を知る分子生物学的な基礎研究が殆どなされていません。

今回、胸腺上皮性腫瘍における染色体の安定化に関わる BAP1, SETD2, Baf180 に着目し、それらのタンパクの発現、mRNA の量的差異、それぞれの mRNA に対応する microRNA の数を調べる事としました。タンパク発現の有無は、免疫染色で確認します。併せて、腫瘍と非腫瘍胸腺から laser captured microdissection (LCM)を利用し、腫瘍細胞および比較コントロールとしての非腫瘍胸腺上皮細胞をくりぬき、RNA を抽出し、mRNA および microRNA(miR31, miR106p, miR590)についての定量的 PCR を行います。

### 研究期間

2017年11月1日～2019年3月31日

### 3. 研究に用いる試料・情報の種類

試料：手術で摘出した組織（病理診断用パラフィン包埋材料、将来の検査・診断に備えて保管してある凍結検体）

情報：診療録から得た属性情報（年齢、性別、病理診断名、腫瘍の際は腫瘍径と病期）

#### 4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。  
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

##### 研究責任者

所属：昭和大学横浜市北部病院呼吸器センター 氏名：植松 秀護

住所：224-0041 横浜市都筑区茅ヶ崎中央35-1 電話番号：045-949-7000

研究代表者：昭和大学横浜市北部病院呼吸器センター 氏名：植松 秀護